【令和5年度全国学力・学習状況調査分析結果】

我が校の強み・弱み分析・評価シート

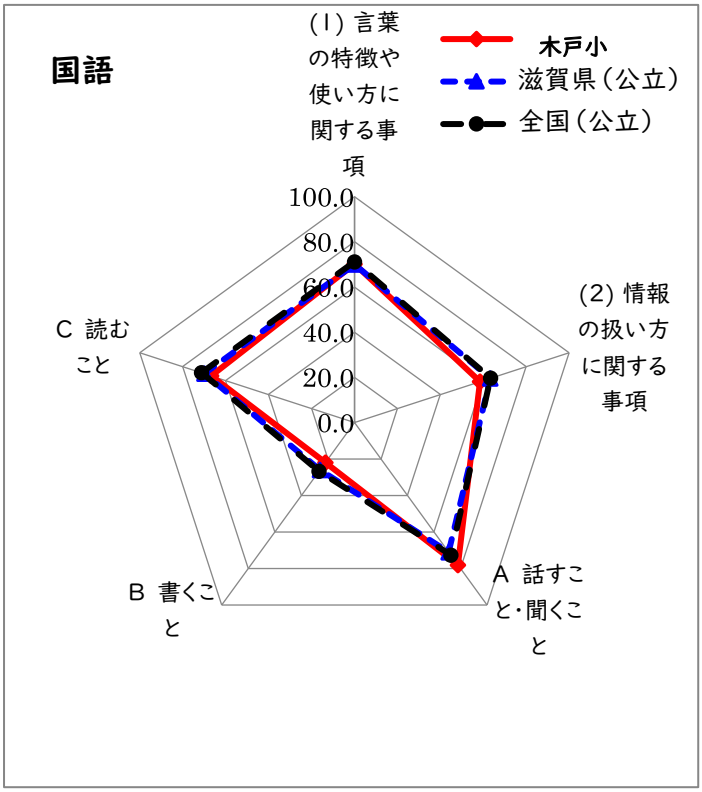
大津市立木戸小学校

1，学習に関わること【学習指導要領の内容の平均正答率の状況】

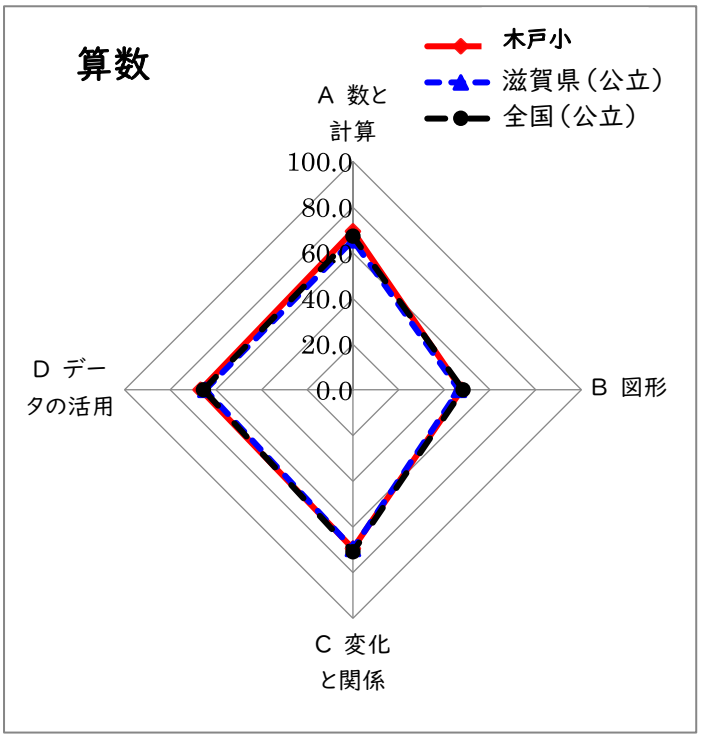
※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。破線はポイント差の中央値を表しています。破線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を検討する項目）と捉えることができます。

〈本校の強みと弱み〉



【国語科】「話すこと・聞くこと」の領域において理解度が高く、全国平均を5．4ポイント上回っている。特に必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや、自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかを問う問題では、全国平均を9ポイント上回っていた。聞きながら要点をまとめるといった学習活動を、発達段階に応じて繰り返し行っている効果であると考える。一方で図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかを問う「情報の扱い方に関する事項」の領域において、全国平均を4．9ポイント下回った。今後学習において、①書き表し方の工夫について話し合う活動②図表やグラフを用いることによる利便性を実感できる活動を充実させていく。本校では、今年度より全校百文字作文に取り組んでいる。百文字作文とは、毎月テーマに沿った作文を、文字の制限を守って書く活動である。また、学習のスタンダードとして、めあてを共有することと学んだことを振り返る実践を行っている。今年度は、振り返りの充実を力点としており、①自分の「今の思い」を振り返る②自分の「学びの過程」を振り返る③自分自身の「変容」を振り返る④学習や活動の「外」とつなげる④自分の「これから」とつなげる　などの観点で振り返り、学びを高める工夫を導入しているところである。

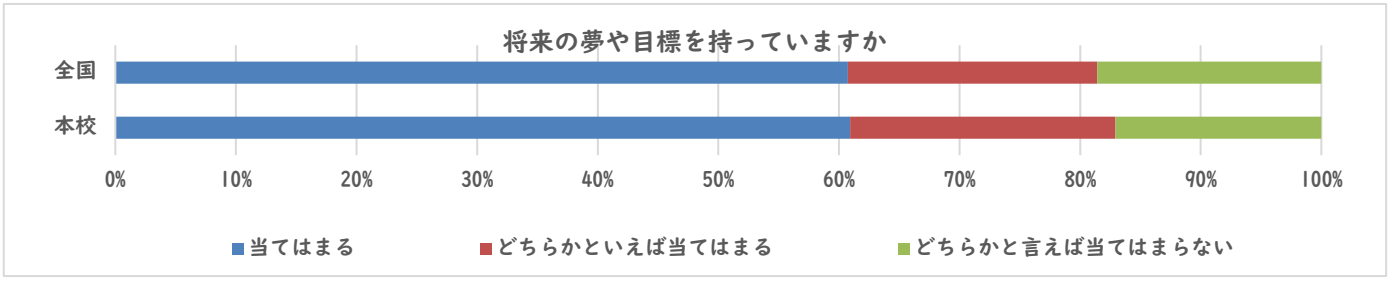


【算数科】全体では全国平均をやや上回る結果となった。特に「変化と関係」の領域において、割合の理解を問う問題では7．7ポイント全国平均を上回った。また、「数と計算」の領域において、日常生活の場面を解釈し求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題では6．7ポイント、加法と乗法の混合計算や分配法則を用いた計算では5．6ポイント全国平均を上回った。また「図形」の領域において、図形の意味や性質の理解では3ポイント、面積の大小を判断しその理由を記述する問題では1．2ポイント全国平均を上回っている。今後も、問題を自立的・協働的に解決する過程を大事にした授業・単元計画を進めていく。一方、数量を読み取ったり、項目間を読み取ったりする問題（「データの活用」の領域）は、全国平均をやや下回り、目的に応じてデータの特徴や傾向を捉え考察するような読み解く力を問われる問題において、必要な情報を読み取ることができる力を発達段階に応じて基礎から積み上げていく。

2，生活に関わること【児童質問紙調査】＊学校教育目標と照らし合わせて、質問項目を抽出しています。

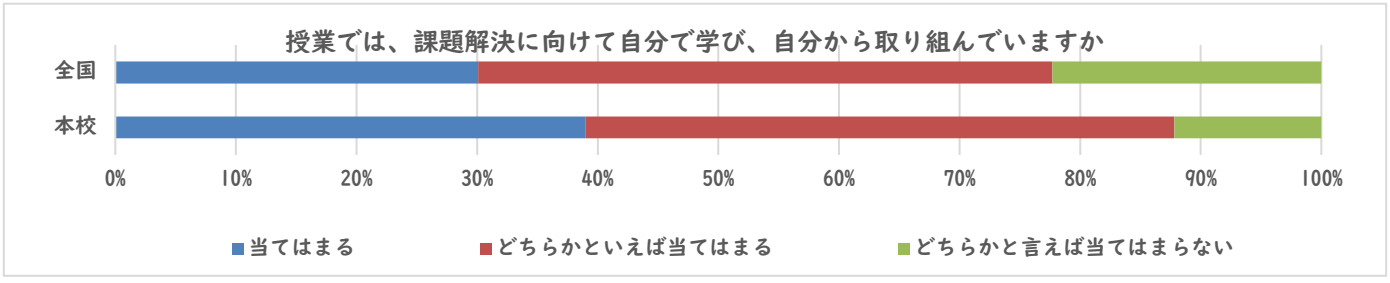
「夢と志をもって生きる木戸っ子」

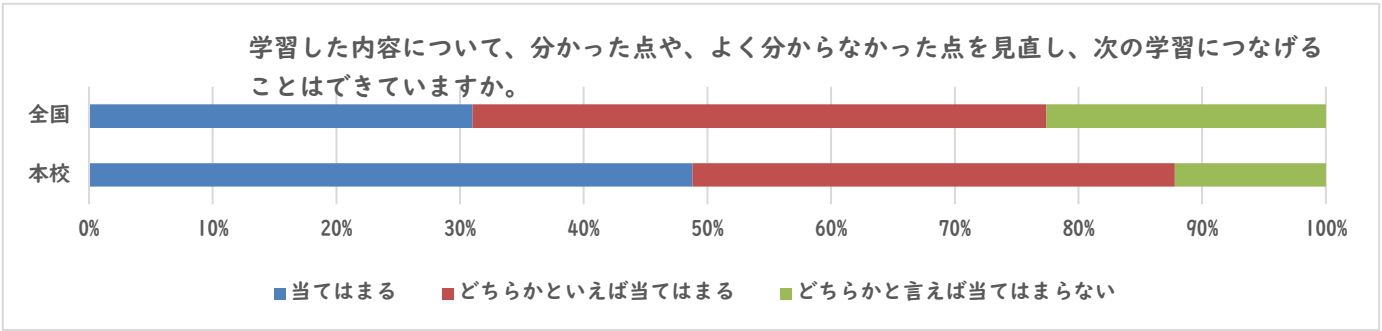
エージェンシー
OECD ラーニングコンパス2030
子どもたちがウェルビーイングを実現していくために自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力　　の育成



進んで学ぶ子

〇自分の考えを持つ力の育成〇自分を表現する力の育成〇チャレンジする力の育成





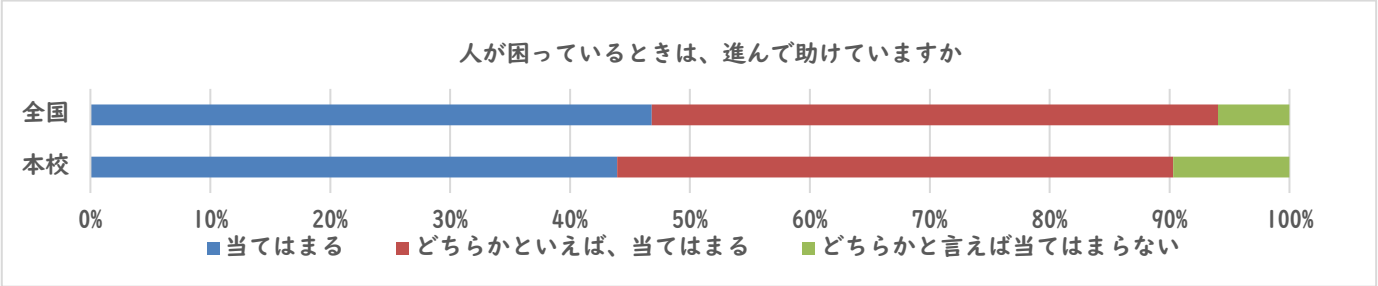
【重点取組事項】

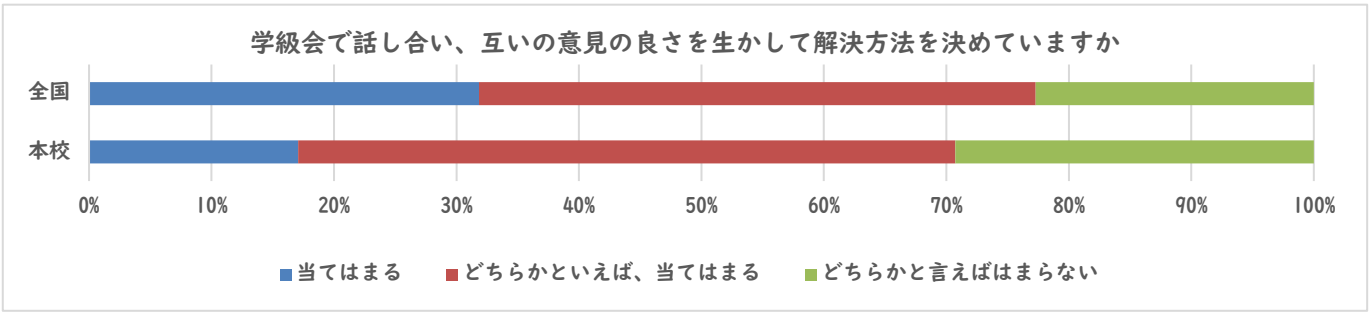
本校では上記以外の校内アンケートにて、「学習はわかりやすい」・・・94%、「友達と協力したり話し合ったりして、落ち着いて学習している」・・・92%の児童が「当てはまる」・「やや当てはまる」と回答している。

授業づくりでは、①めあての提示と振り返りの設定の徹底およびその工夫②木戸小スタンダード(授業スタイルの統一・学習規律の統一・児童が参画する教室環境づくり)の実践③「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実するためのICTを効果的に活用し、より実効性の高い学びの保障をめざしている。

なかよく協力し合う子

○人を大切にする力の育成○多様性と包摂性の尊重○特別活動・学校行事の創意工夫





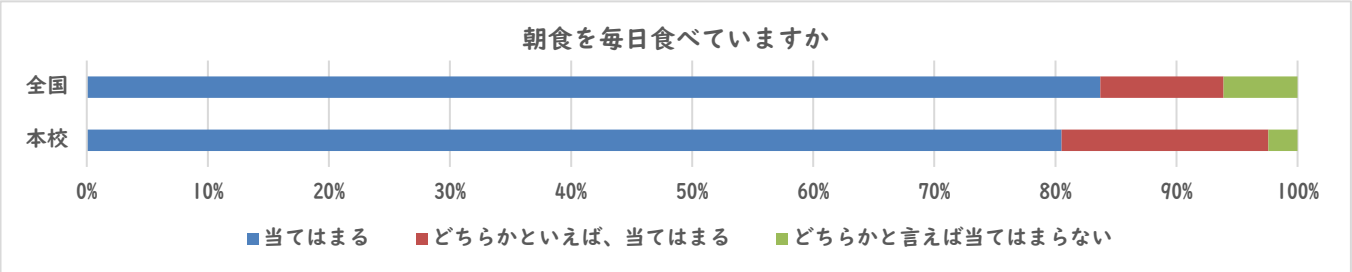
【重点取組事項】

本校では、学ぶ意欲を引き出す学習集団作りに関して、児童会活動や学級活動の充実をめざし、◇年間を通した異学年交流◇学年の力を高める集会◇木戸っ子総会◇やるぞカードのふりかえり（クラブ・委員会）◇委員会常時活動の見える化（掲示板・連絡黒板）◇全員参加のクラス会議◇木戸小の当たり前と委員会活動とのタイアップ◇学校だより・HP等による情報発信の充実　などを、具体的な方策として取り組んでいる。

また、他の校内アンケートにおいて、「思いやりの気持ちをもって誰にでも親切にしようとしている」という質問に対して「よくあてはまる」と回答した児童は、92%となっている。今後も、様々な行事や話し合いを通して、自ら判断し、行動できる力の育成をめざしていく。

明るくたくましい子

○運動に親しむ態度の育成○健康的な生活習慣の確立○体系的な保健・安全教育の創意工夫



【重点取組事項】

他の校内アンケートにおいて、「体育の授業や宿題、休み時間の外遊びなど、からだを動かすことは楽しい」と91%の児童が「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答しており、毎日の体育の宿題やロング昼休みの取り組みの成果であると考えている。また、学校（環境）づくりに進んで参画できている児童がとても多いのが本校の特徴である。

今年度、デジタルの活用と合わせて、学校や地域の生活の中で、「人・もの・こと」 との関わりで身体（見る・聴く・触る・対話する）を使ったリアルな体験活動の機会を意識化し、充実させているところである。「チームとしての学校」の力の一層の向上を図るために、コミュニティ・スクールとの連携をさらに進めていく。全国学習学力調査の形式知や経年変化を用いて分析し、子どもたちの実態について共有し、今後の学校づくりに繋げていく。